

子どもの権利とスポーツ

昔から「スポーツの秋」という言葉があるように、秋は体を動かすのに適した季節です。

スポーツをする目的は人それぞれですが、本来スポーツの語源は「楽しむ」ということ。スポーツは性別や年齢、障がいの有無などに関係なく、ともに喜び、感動を共有し、絆を深めることを可能にします。スポーツを楽しむことは、子どもから大人まで全ての人が持っている大切な権利です。私たちは、子どもがスポーツを楽しむ権利を尊重し、支えていくために、どのように心がけるのが望ましいでしょうか。

40年近くにわたり、子どものスポーツ指導に携わり、現在スポーツ推進委員として活躍している大坪初次郎さんにお話を伺いました。

子どもの豊かな成長のために

「子どもにとってスポーツとは遊びの延長だと思えます。五感を使っ



のびのびとプレイする子どもたち。スポーツを楽しむ気持ちを大切にしてほしいですね。

て遊ぶことを子どものときに経験しておくことは、成長期においてもとても大切なことだと考えています。

スポーツは、勝敗を競うことも大事ですが、ルールやマナーを学んだり、お互いを助け合う心など、社会性を身につけるのに大切なことを学べる場でもあると思います。

ところが、今は決められた場所で決められた人しかスポーツができない状況であることに窮屈さを感じます。また、ゲームやネットの普及など、さまざまな事情から体を使って遊ぶ子どもたちが減ってきました。どの子にも自由にスポーツをする機会や場を与えることが私たち大人の責任であり、子

子どもの権利

平成元(1989)

年の国連会議において「子どもの権利条約」が定められました。

この条約では、全ての18歳未満の子どもがしあわせに育っていくために保障される様々な権利と、それを守る大人の責任がうたわれています。

どもの権利を守る上でも大切なことではないでしょうか。

また、子どもたちの楽しむ心を

認めてあげることも大事です。『心技体』と言いますが、今の社会は『技』を重視することに偏っていると思います。たまに保護者の方が『この子は運動神経がなく』とお話されますが、運動神経は経験に左右されるものなので、最初から大人が子どもの可能性を否定したり、上限を決めたりするのは良くないというのが私の考えです。

子どもはスポーツを通して学び、成長します。目標を持った子どもたちの成長はとても素晴らしいです。自分から積極的に目標に向かって努力し伸びていく、そういった

子どもたちを私は今まで何人も見てきました。子どもの可能性は無限に広がっているのです」

子どもは権利の主人公

子どもにとってスポーツを楽しむことは成長にとっても良い影響をもたらすことが、大坪さんご自身の経験談からよく伝わりました。

子どものためによかれと思って、つい先回りしてしまいがちですが、主役は子ども自身です。子どもにとって何が最善かを第一に考えつつ、子どもの意見をよく聴き、寄り添い見守る——。そうした子どもを大切に思う行為が相互の信頼関係を築き、子どもの権利を守ることにつながるのでしょうか。

人権メッセージ(標語)募集中

人権に対する思いをメッセージにしてみませんか。募集区分や応募方法など、詳しくはQRコードから市公式HPを参照ください。

